芦屋市男女共同参画センター通信　ウィザス　No.80　2015・春号

ウィザス

「ウィザス」は、ウィズアス＝with us “共に生きる ― 男女共生社会”の理念を表しています。

特集

男女平等社会の実現を願って―
センター誕生20年のあゆみ
～女性センターから男女共同参画センターウィザスあしやへ～

絵　A.S

ウィザス ウォッチング

《県内1位》芦屋市附属機関委員に女性37・6％

「第3次芦屋市男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」の基本目標2の中には、「市附属機関等における男女共同参画の推進」という具体的施策があります。

附属機関とは、市がさまざまな施策を決定する時などに、市民や専門家・関係団体の意見を伺う場として設置する審議会や協議会・懇話会等を指しています。

このような審議会等に、男女の委員がバランスよく加わることで、幅広い活発な意見交換などができます。

そこで、男女共同参画推進課では、これまで少なかった女性委員の参画を積極的に進めているのです。

兵庫県男女家庭課では、県下市町の審議会等について女性委員の割合を毎年調査しています。

その調査の結果、平成26年4月現在で、芦屋市の割合は37・6％、県内第1位となっています。

しかし県内第1位とはいえ、本市の計画では「附属機関等における女性委員の割合が平成29年度までに40％以上」という目標を掲げており、まだ目標には達していません。

また、この割合は任期満了による委員の入れ替わりや団体からの推薦などによって増減するものでもあります。

男女が共に責任を分かち合いながら、お互いを尊重しつつ認め合える「男女共同参画社会」の実現を目指して、女性委員の登用を引き続き推進していきます。

女性センターと私の18年間の日々

阪神・淡路大震災の半年後、芦屋市女性センター職員公募に応じ、専業主婦から「男女共生社会実現の目的施設」に就職しました。

オープンしてわずか半年で被災した女性センターは、震災復興優先のため予算も人手も不足していました。当時、外部団体の協力を得て開催した『ボランティア養成講座』の申し込みの電話が鳴り続け、被災地の芦屋で、市民一人一人が何かをしたい、役に立ちたいという思いがひしひしと伝わってきました。

震災で配布不能になったセンター通信・幻の創刊号に続く第2号「震災特集」を、ボランティアの市民編集委員に取材協力をいただいて、その夏、ようやく市内で配布できました。

市民編集委員はじめ、講座企画委員・保育グループ・パソコン講座アシスタント・HPボランティア・女性センターボランティアなどなど数えきれないほどの応援をいただき、実に多くの市民の手に支えられて、この20年のセンター事業が回っていったのだと思います。

平成12年2月、5周年記念フェスタを登録グループに呼びかけました。人口10万足らずの芦屋ならではの「顔の見える関係」のネットワークづくりの始まりでした。今、登録グループは、芦屋市男女共同参画団体協議会として、毎年、市と共催してウィザスあしやフェスタを開催しています。

個々のグループが活動内容を発表し合い、グループ交流や共同事業を実施するなかで、自然に協力関係が育まれ、恒例となったDV被害者支援のためのバザーは、「継続は力なり」の賜物で、男女共同参画つながりのネットワーク力の見事な結実だと思います。

18年にわたる私の職業生活は、男女共同参画センターに集う皆さんから地域活動やグループ活動の大切さを教えられ、仕事でありながら、未熟な自分自身の学びの場でもありました。年代を超え、多くのエネルギーあふれる素晴らしい女性たちと出会えたことは、私の人生の宝物となりました。

一昨年、山梨県中央道笹子トンネル天井板崩落事故の犠牲者の中に私の娘がいました。かけがえのない命の喪失感と理不尽さに仕事を継続していく力を奮い立たせることができませんでした。人命の安全よりも経済効率を優先した高速道路の管理会社を司法へ訴え、事故の原因究明、責任の追及、再発防止のために、民事裁判で闘っています。遺族しかできないこと、遺族だからこそできることを自分に問い続けながら。

芦屋市男女共同参画センター・元嘱託職員　松本　和代

編集後記

昨年６月から、センター通信「ウィザス」の編集に参加しています。

「男女共同参画」という難しい６文字熟語に、最初は？？？と戸惑っていましたが、８カ月経った今では、『男性と女性、いっぱい違いはあるけれど、それを認め合いながら共に歩みましょう』という、とても素敵な理念だと納得するようになりました。

国籍・宗教・肌の色などの違いが恐ろしいテロの原因にもなってしまう現代社会、小さな力だとは思いますが、私たちもペンの力で、男女の違いが生む溝を少しでも埋めることができますように。

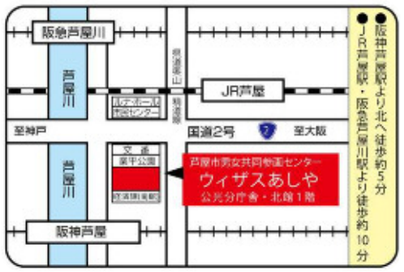
（浜橋）

ウィザス No. 80　■平成 27 年３月発行（春号）

編集・発行　芦屋市男女共同参画センター　ウィザスあしや

〒 659-0065 芦屋市公光町 5-8（公光分庁舎・北館１階）
TEL. 0797-38-2023 / FAX. 0797-38-2175
E メール josei-ce@city.ashiya.lg.jp

■開　館：月曜日～土曜日・午前９時～午後５時 30 分
■休　館：日曜日・祝日・年末年始（12 月 28 日～１月４日）
ホームページ http://www.city.ashiya.lg.jp/danjo/withus/centerwithus.html



★20周年記念★ ウィザスあしやフェスタ 2015

≪３月 15 日(日)～ 21 日(土)≫

会場：芦屋市男女共同参画センター

★３月 15 日(日)の催し
①バザー　10 時～ 11 時 30 分（１階セミナー室）
②模擬コーナー　11 時～ 13 時 30 分（２階フロア）
③オープニングセレモニー / 記念講演会 part.1
13 時 30 分～ 15 時 30 分（２階会議室 C・D）

★３月 20 日(金)の催し
●記念講演会 part.2
14 時～ 15 時 30 分（２階会議室 C・D）

★ワークショップ・展示〈16 日～ 21 日〉
※詳細は、下記センターへお問い合わせいただくか、市ホームページまたはフェスタプログラム等をご参照ください。

秘密厳守　女性相談　面接相談

無料相談・予約専用電話　TEL 38-2022

～ご相談には、予約が必要です～

■日　程　①第１土曜日 ②第１～４金曜日
■時　間　①午前10時～正午〈１人50分〉
②午前11時～午後４時〈1人50分〉
■内　容　女性が抱えるさまざまな悩み
※一時保育（無料）あり〈要予約〉

一時保育つき大人の読書タイム

子育て中の皆さん、毎月第３火曜日の２時間、ゆっくりとお好きな本を読んでみませんか？

４月からは、第３月曜日（午前中のみ）も、あなたの読書中、お子さんはセンター保育室でお預かりします。

■日　時　【火曜日】３月17日・４月21日・５月19日
午前10時～正午/午後１時～３時
【月曜日】４月20日・５月18日の午前中
※各回・先着４人
■会　場　男女共同参画センター
■対　象　子育て中の親（祖父母を含む）と子ども（２歳以上就学前児）
■一時保育　各回とも、先着・各４人
（１人 300 円）＜要予約＞
■申し込み　毎月１日から、電話で下記へ

男女平等社会の実現を願って―

センター誕生 20 年のあゆみ

～ 女性センターから 男女共同参画センターウィザスあしやへ ～

林　雍子（はやし・ようこ）さん
平成３年から 13 年まで、女性施策担当課長。芦屋初の女性課長として、「女性センター」開設への道筋づくり、その後のセンター運営や女性施策の向上に尽力された。

昨年８月１日は、芦屋市女性（男女共同参画）センターが開設されて 20 年目のスタートの日となりました。また、本年３月には、20 周年を記念した「ウィザスあしやフェスタ 2015」が、男女共同参画団体協議会とセンターが共催して開催されます。
今回の特集では、センター誕生前後の女性施策担当課長だった林雍子さんにお話をうかがう中で当時を振り返り、また男女参画社会の実現に必要なこととは何かについて考えたいと思います。

芦屋市男女共同参画センター
ウィザスあしや
（公光分庁舎・北館１階）

●平成 27 年２月、林さんに女性センター誕生のころのお話を、現在の市民編集委員がお聞きしました。

■「芦屋市女性施策」の幕開け

私が「女性対策担当」課長の辞令をいただいたのは、平成３年４月１日のことでした。
芦屋で初の女性課長となった訳ですが、まだ女性施策自体が実績のない施策だったため、予算もゼロの状態でした。あるものは、ただ事務机１つだけというスタートでした。
さらに当時は、東京周辺では先駆的な取り組みを行っている都市もありましたが、まだまだ模索の段階にありました。
けれどもそんな“ないないづくし”の状況だったからこそ、県や阪神間各市との連携や情報交換は緊密に行われ、職員間も親密でした。また国も、地方自治体からの問いかけに、親切に答えてくれました。芦屋にとって国の補助金を獲得する方法を考えるのは、最初の段階でのとても大切な仕事の１つでした。

■市政モニター「アスパップレディ」

平成３年４月 27 日、全国初の女性市長・北村春江氏が市長に就任しました。
新しい女性市長の下、女性を対象とした事業が必要となり、市民に市政をモニターしていただく「アスパップレディ」を立ち上げました。
「女性だけでは問題じゃないか？」との意見も出ましたが、当時は審議会ほか政策意思決定の場は男性が大多数という現状でしたから、そんな中では女性ばかりのモニターがあってもいいのではないかということになり、女性目線での問題点を市長に提言する女性市民による市政モニター「アスパップレディ」が誕生しました。
地域によって偏りが出てはいけないので、当時は各小学校区に３人、合計 27 人のアスパップレディが就任しました。
任期は１年、毎年公募で選んでいきましたが、関わってくださったメンバーは後に女性センターでの活動の核になっていき、ルナ・ホールでの講演会や市民センターでの展示、センター通信「エメラルド」創刊号の表紙絵なども担当してくださいました。日々の暮らしの中で、自分のアイデンティティを考えていた皆さんが、女性センターに関わってきたと思います。そして、私はアスパップレディをはじめとして、多くの市民の皆さんと二人三脚で歩んできました。
私は、女性問題に関心を持っている市民はセンターの財産だと思ってきましたし、私自身の財産ともなっています。

■「芦屋市女性センター」オープン

芦屋市に女性センターがオープンしたのは、平成６年８月１日のことです。場所は精道小学校の北側にあった平屋の木造家屋で、そこからのスタートでした。
当時、ほかの市施設と同様、女性センターを利用する市民から使用料を徴収すべきだという議論がありました。
けれど、センターの設備等が十分ではなかったこともあり、使用料徴収を当分見合わせて、より多くの市民に使っていただいた方が良いと、当時は考えていました。
「女性センター」という名称は、ただでさえ男性が入りにくいという意見がありました。

しかし、男性や年配のかたたちにも女性施策を理解していただきたく、そのひとつとして、毎年グループ活動に移行されていた芦屋川カレッジの皆さんに場の提供を提案。以来、芦屋川カレッジの皆さんが女性センターの活動に関わっていただくことにつながっていきました。
センターが大原町に移転したときには、自治会など地域のかたにも利用していただくよう、印刷機を使ってもらうよう呼びかけました。そしてそれ以後、自治会も利用していただけるようになり、これで男性や地域の人にも利用してもらえる「女性センター」になっていったのです。

■阪神・淡路大震災でセンターも避難所に

その大震災に見舞われたのは、女性センターが開設されてまだ６カ月目の平成７年１月 17 日未明のことでした。
その前年から準備していたセンター通信「エメラルド」創刊号の印刷も終え、配布しようとしていた矢先でした。
私は、その日の早朝から市役所に設置された災害対策本部で被災市民への緊急対応が優先勤務となり、女性施策は事実上一時棚上げ状態となりました。
女性センターも翌日には避難所となり、半年くらいの間は近隣の市民が避難されていました。センターには小さな庭がありましたので、犬を連れてくる人もいらっしゃいました。
けれど、そんな中にも被害が少なかったメンバーが集まり、ボランティアで避難所の運営に関わってくれたり、その年の７月には「エメラルド」2 号が発行できるように作業を進めてくださっていました。

また、市民モニター「アスパップレディ」の皆さんも、自主的に『女性目線の防災対策』を提案するなどの活動を続けてくださっていました。

■「男女共同参画センター」への名称変更

「女性センター」から「男女共同参画センター」へと名称が変わったのは、平成 19(2007)年１月１日からです。
それに合わせて、平成 19 年の夏号（第 50 号）からセンター通信「エメラルド」が「ウィザス」へと名称を変更しました。
「女性センター」という名称は、女性施策の適切な表現ではないと思っていたので、名称変更への抵抗はなかったですね。ただ名称が長い点には、ちょっと抵抗はありましたが…。

■印象に残る事業

平成５年４月に開催した「婦人週間記念事業」は印象深いイベントでした。政策意思決定の場にいる女性（北村春江芦屋市長・沢光代逗子市長・加藤ひとみ鶴ヶ島市収入役）の主張を聞くシンポジウムに、全国から 900 人ほども集まりました。
女性が意思決定の場に立つことを、多くのかたが期待していると、ひしひし感じました。
また、映画字幕の翻訳者で有名な戸田奈津子さんの講演会、憲法策定時に女性で参加したベアテ・シロタさんの講演会も印象に残っています。
これらの事業を進めるため、市民意識調査や懇話会の実施、庁内に女性施策推進会議を設置して行動計画を策定し、方針決定したことも印象深いです。
また、市内の各団体との連携が課題だと思っていました。
「女性の悩み相談」ではＤＶ撲滅に関する相談を実施して、深刻な状況があることを知りました。
ＤＶ撲滅に関する啓発を、芦屋警察署や市内各団体と連携して行いましたが、今もそうした啓発を継続されていることは素晴らしいと思います。

■未来へ託したいこと

全体的な意識の問題や、意思決定の場への女性の参加への問題などは変わっていないと思います。ここが変わらない限り、女性の力が発揮しにくいですね。
男女共同参画社会の考え方が、多くの人に徐々に浸透しつつあるようです。当初は、私たちにも戸惑いがあり理解していただくことが難しい点もありました。しかし、時代の流れと共に市民の皆さんに浸透しつつあるようです。
例えば、保育所に迎えにきている男性の姿を普通に見るようになりました。 女性にとって、働きやすい環境が充実してきているのだと思います。
今後も、市民の皆さんをはじめ、より多くの人々に浸透していくことを願っています。

20 周年のあゆみ

年	内　　容
1990 年（平成２年）	【芦屋市市制施行 50 周年】
1991 年（平成３年）	☆市長室に「女性対策担当」設置（４月） ☆市政モニター「アスパップレディ」発足（11 月）
1992 年（平成４年）	☆「女性に関する諸問題についての市民意識調査」実施（５・６月） ☆「芦屋市女性施策推進懇話会」設置（６月） ☆「芦屋市女性施策推進会議」設置（６月）
1993 年（平成５年）	☆市長室女性対策担当＜組織改正＞（４月） ☆懇話会「男女共同参画型社会の実現を目指して」提出（６月）
1994 年（平成６年）	★芦屋市女性センター設置（８月１日／精道町５番 11 号） ☆女性の諸問題に関する相談事業開始（９月）
1995 年（平成７年）	【１月 17 日　阪神・淡路大震災】 ★女性センター通信「エメラルド」創刊号発行（１月）
1996 年（平成８年）	☆企画財政部女性施策担当＜組織改正＞（４月） ★女性センター移転（9 月 24 日／大原町 2-6　ラ・モール芦屋2 階）
1997 年（平成９年）	☆「芦屋市男女共同参画推進本部」設置（９月） ☆「芦屋市男女共同参画推進委員会」設置（12 月）
1998 年（平成 10 年）	☆「芦屋市男女共同参画行動計画 ウィザス・プラン」策定（６月）
1999 年（平成 11 年）	★女性センター開設５周年（８月１日）
2000 年（平成 12 年）	★５周年記念フェスタ開催（２月 19 日・20 日） ☆総務部女性施策担当＜組織改正＞（４月） ☆ＤＶ専門相談開始（４月）
2002 年（平成 14 年）	☆「芦屋市男女共同参画に関する市民意識調査」（１・２月） ☆市政モニター「アスパップレディ」終了（３月）
2003 年（平成 15 年）	☆「第２次男女共同参画行動計画ウィザス・プラン」策定（３月） ☆女性施策担当を、男女共同参画推進担当に名称変更（４月）
2004 年（平成 16 年）	☆男女共同参画推進担当を、市民参画課に組織変更（４月） ★女性センター開設 10 周年（８月１日）
2005 年（平成 17 年）	★ 10 周年記念フェスタ開催（２月 26 日～３月５日）
2007 年（平成 19 年）	★「男女共同参画センター　ウィザスあしや」に施設名変更（１月１日～）
2009 年（平成 21 年）	★芦屋市男女共同参画センター 15 周年（８月１日）
2010 年（平成 22 年）	★ 15 周年記念フェスタ開催（３月１日～ 30 日）
2013 年（平成 25 年）	★男女共同参画センター移転（４月／公光町５番８号・公光分庁舎北館１階）
2014 年（平成 26 年）	★男女共同参画センター 20 周年（８月１日）
2015 年（平成 27 年）	★ 20 周年記念フェスタ開催（３月 15 日～ 21 日）

センター通信　20年のあゆみ

「エメラルド」　創刊号～22号

「芦屋市女性センター」が誕生したのは、平成6(1994)年8月1日。
センター通信「エメラルド」は、翌平成7年1月に創刊号を発行しました。しかし、そこへあの阪神・淡路大震災が起きたのでした。
まさに、怒涛の幕開けでした。

■「エメラルド」のバックナンバーは、男女共同参画センターでご覧いただけます。

創刊号
1995(平成7)年1月
<特集>
女性センターあらかると

第2号
1995(平成7)年7月
<特集>
震災と向きあって

第3号
1995(平成7)年11月
<特集>
北京会議ってなあに？

第4号
1996(平成8)年1月
<特集>
被災から1年

第5号
1996(平成8)年3月
<特集>
女性のライフスタイル

第6号
1996(平成8)年夏号
<特集>
女性たちの職を拓く

第7号
1996(平成8)年秋号
<特集>片思い…？
共に家事したい気持ち

第8号
1997(平成9)年冬号
<特集>
市民活動する女性たち

第9号
1997(平成9)年春号
<特集>女性消防団
パーティーズ誕生

第10号
1997(平成9)年夏号
<特集>
支払われない労働って何？

第11号
1997(平成9)年秋号
<特集>
誰が支える？私たちの老後

第12号
1998(平成10)年冬号
<特集>子どもたちは
ジェンダーフリー

第13号
1998(平成10)年春号
<特集>お墓
ー自分らしい選択へー

第14号
1998(平成10)年夏号
<特集>ファッションから
ジェンダーを考える

第15号
1998(平成10)年秋号
<特集>ウィザス・プラン
男女共同参画行動計画を策定

第16号
1999(平成11)年冬号
<特集>
女性が再び働き始める

第17号
1999(平成11)年春号
<特集>女性の眼でみる
TVコマーシャル

第18号
1999(平成11)年夏号
<特集>
少子化って何が問題？

第19号
1999(平成11)年秋号
<特集>男女共同参画
法律を知ってパワーアップ

第20号
2000(平成12)年冬号
<特集>女(DC)と男(DC)
ポジティブに生きる

第21号
2000(平成12)年春号
<特集>ひとごとですか？
ドメスティック・バイオレンス

第22号
2000(平成12)年夏号
<特集>
女性と憲法

「エメラルド」　23号～46号

第23号
2000(平成12)年秋号
<特集>シルバー世代の
意識を探る

第24号
2001(平成13)年冬号
<特集>女性の政治参画
ー芦屋の女性市議に聞くー

第25号
2000(平成13)年春号
<特集>自立
パラサイト・シングルのゆくえ

第26号
2001(平成13)年夏号
<特集>こんなに違う、
夫婦の意識

第27号
2001(平成13)年秋号
<特集>子どもをたたくって
いけないこと？

第28号
2001(平成14)年冬号
<特集>私が創る
私の老後

第29号
2002(平成14)年春号
<特集>
〈自己表現〉できていますか

第30号
2002(平成14)年夏号
<特集>
広がる市民活動の輪

第31号
2002(平成14)年秋号
<特集>
「主婦が働く」を考える

第32号
2003(平成15)年冬号
<特集>
絵本とジェンダー

第33号
2003(平成15)年春号
<特集>
女性専用車が行く

第34号
2003(平成15)年夏号
<特集>
第2次ウィザスプラン策定

第35号
2003(平成15)年秋号
<特集>
映画を数倍楽しむ方法

第36号
2004(平成16)年冬号
<特集>
こんにちは！市長さん

第37号
2004(平成16)年春号
<特集>
のりきろう更年期

第38号
2004(平成16)年夏号
<特集>"お父さん"
していますか

第39号
2004(平成16)年秋号
<特集>気になりませんか？
"主人"という言葉

第40号
2005(平成17)年冬号
<特集>
女三界に家あり！

第41号
2005(平成17)年春号
<特集>
女性と年金

第42号
2005(平成17)年夏号
<特集>
男の涙

第43号
2005(平成17)年秋号
<特集>データで知る
世界の中の日本

第44号
2006(平成18)年冬号
<特集>
食について考える

第45号
2006(平成18)年春号
<特集>
女性の悩み、100年

第46号
2006(平成18)年夏号
<特集>
怒るっていけないこと？

センター通信　20年のあゆみ

センター通信　20年のあゆみ

「エメラルド」47号～49号／「ウィザス」50号～68号

第47号
2006（平成18）年 秋号
≪特集≫
家庭のデモクラシー

第48号
2007（平成19）年 冬号
≪特集≫
平和のためにできること

第49号
2007（平成19）年 春号
≪特集≫
男女共同参画ってなに？

「女性センター」から「男女共同参画センター」へと名称が変わったのは、平成19(2007)年1月1日。
センター通信「エメラルド」が、「ウィザス」に名称を変更したのは同年の夏号（第50号）からでした。

■「エメラルド」・「ウィザス」のバックナンバーは、男女共同参画センターで、ご覧いただけます。
■「ウィザス」53号以降は、芦屋市男女共同参画センターホームページでもご覧いただけます。

第50号
2007（平成19）年 夏号
≪特集≫
はじめての選挙

第51号
2006（平成19）年 秋号
≪特集≫
男だって育児も仕事も！

第52号
2007（平成20）年 冬号
≪特集≫
それって、愛？ DV？

第53号
2007（平成20）年 春号
≪特集≫
女性とスポーツ

第54号
2007（平成20）年 夏号
≪特集≫ウィザス・プラン後期計画を策定

第55号
2007（平成20）年 秋号
≪特集≫バランス良く、仕事と生活

第56号
2008（平成21）年 冬号
≪特集≫
女だからできたこと

第57号
2009（平成21）年 春号
≪特集≫あなたの生と性
あなたが主役

第58号
2009（平成21）年 夏号
≪特集≫芦屋市で、男女共同参画を推進する条例を

第59号
2009（平成21）年 秋号
≪特集≫リプロダクティブ・ヘルス／ライツを考えよう

第60号
2009（平成21）年 冬号
≪特集≫
結婚に何を求めますか

第61号
2010（平成22）年 春号
≪特集≫
芦屋で、おひとりさまの老後

第62号
2010（平成22）年 夏号
≪特集≫
イクメン、キクメンのすすめ

第63号
2010（平成22）年 秋号
≪特集≫
ひとりで抱え込まないで！

第64号
2010（平成22）年 冬号
≪特集≫女性の生涯にわたる健康を考えてみませんか！

第65号
2011（平成23）年 春号
≪特集≫思春期の子どもたちとどう語る？

第66号
2011（平成23）年 夏号
≪特集≫ワーク・ライフ・バランスって？

第67号
2011（平成23）年 秋号
≪特集≫意思決定の場へ参画すること

第68号
2011（平成23）年 冬号
≪特集≫新しい風
―農ギャルたちの試み―

「ウィザス」 69号～80号

第69号
2012（平成24）年 春号
≪特集≫会ってみたいな
現在・過去・未来の弁当男子

第70号
2012（平成24）年 夏号
≪特集≫
あしやの男女共同参画

第71号
2012（平成24）年 秋号
≪特集≫
介護は、男女で共に

第72号
2012（平成24）年 冬号
≪特集≫
性暴力から子どもを守る

第73号
2013（平成25）年 夏号
≪特集≫
公光町に移転しました！

第74号
2013（平成25）年 秋号
≪特集≫第3次ウィザス・プランを策定

第75号
2013（平成25）年 冬号
≪特集≫「エンティング・デザイン」のススメ

第76号
2014（平成26）年 春号
≪特集≫
「カジメン」のススメ

第77号
2014（平成26）年 夏号
≪特集≫育休とってパパも"地域デビュー"

第78号
2014（平成26）年 秋号
≪特集≫
子育て期の女性たち

第79号
2014（平成26）年 冬号
≪特集≫男性にもあります「更年期」

第80号
2015（平成27）年 春号
≪特集≫ センター誕生20年のあゆみ

「ウィザス」市民編集委員を紹介します

「老害を 気にしつつ 意見言い」
後期高齢者
思えばずーっと日本語と格闘してきたように思います。

岩崎　準一

ウィザスに参加して７年。知ってよかったぁと感じた情報を、これからも記事で伝えていきたいです。

上田　律子

男女平等の願いを繋いで20年！
今回（第80号）の表紙は、ウィザスの成人式をイメージして描いてみました。

菅　朱美

母・妻・娘、そして雑誌ライターをしています。ウィザス参加で、新たな地平が見えてきたような…。

浜橋　多恵子

私たちが編集スタッフです！

市民編集委員になったのは昨年の７月から。ウィザスが多くの皆さんに読まれるようガンバリます。

伏野　彰

思うように描けなくて折れそうになる私に、息子（小四）から一言。
「母さんならできる、あきらめるな！」
息子よ、いつもありがとう。

水木　英子

20年のうちの15年をウィザスに伴走し、成長を見守ってきました。

村上　由起

●「ウィザス」は、市民７人の編集ボランティアと、センター職員とで編集し、発行しています。

●編集委員は、企画・取材・イラスト作画・記事編集など、役割分担して毎号紙面を作成しています。

●「ウィザス」は、今後とも編集委員の協力を得て、年間４回というペースで発行していきます。